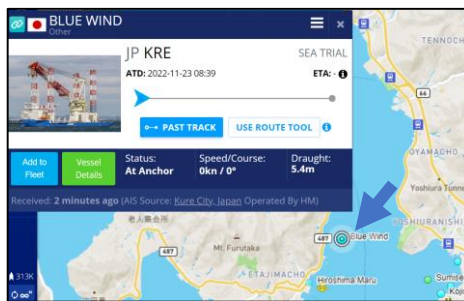


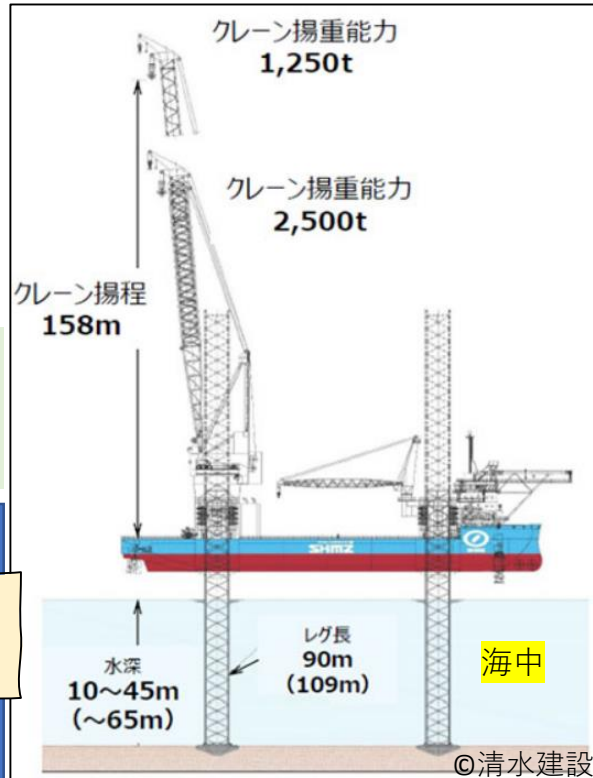
YACかわら版 316

2022年12月7日

船体を持ち上げたBLUE WIND



3月から富山県入善町（にゅうぜん）横山沖で初仕事をした後、室蘭（むろらん）港で準備を整えた後、石狩湾新港で作業予定です。



洋上風力発電施設の部品であるタービン羽根や柱を港から運び、海上でクレーンを使って風車を組み立てる、自走できる専用船です。全幅50m、全長142m、総トン数28,000tです。

完成時の公表写真



「marinetraffic.com」に掲載されている写真



この船の特徴が一目瞭然です。すごい！

対岸からの写真



YACかわら版では、洋上風力発電所を数回取り上げました。洋上風力発電所を効率的に設置する作業を展開するための「自航式SEP船BLUE WIND」をYACかわら版226で説明しました。

呉の造船所で進水し、兵庫県の相生の造船所で艀装（ぎそう）作業を加えたBLUE WINDが呉にもどって、広島県の江田島の海岸でテストをしています。

「marinetraffic.com」で船の位置を確かめ見に行きました。

「船体が浮いている！」
「クレーンが何かをもちあげている！」

作業時には4本の脚を海底につけ、船体をもちあげ海面から切り離し、波浪に左右されない作業条件を確保できます。水深約100mまで対応できるそうです。